

## 【修正等一覧表】

(2021.2.15 更新)

ページ	<内容>	<修正後> (令和3年2月 修正)	<修正前> (令和2年2月改定版)	<備考>
P9	2 長井市民文化会館	長井市では、市民の文化および教養の向上と福祉の増進を図るため、市民文化会館を設置しています。 <u>平成31年4月より耐震補強と大規模改修工事を行い、令和2年7月に工事完了、同9月にリニューアルオープンしました。</u> <u>(写真差し替え)</u>	長井市では、市民の文化および教養の向上と福祉の増進を図るため、市民文化会館を設置しています。 <u>耐震補強と大規模改修工事のため。平成31年4月1日より休館しています。工事は令和2年夏ごろ完了予定です。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容更新</li> <li>・写真差し替え</li> </ul>
P11	13 市役所進捗状況	<u>直近の写真を2枚追加</u>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真追加更新</li> </ul>
P17	4 フラワー長井線	山形鉄道(株)のフラワー長井線は、東京鉄道局長井軽便鉄道として大正2年(1913)に赤湯～ <u>西大塚間</u> が開通し、大正3年(1914)には長井駅まで延伸開業しました。	山形鉄道(株)のフラワー長井線は、東京鉄道局長井軽便鉄道として大正2年(1913)に赤湯～ <u>梨郷間</u> が開通し、大正3年(1914)には長井駅まで延伸開業しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤表記訂正</li> </ul>
P23	長井のキャラクター	長ダムシンボルキャラクター	長井ダム完成記念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容修正</li> </ul>

P24	冒頭文（段落4）	盆地の <u>東側</u> には平成元年に制定された市の条例による「不伐の森」を設け、緑を育てています。	盆地の <u>東西</u> には平成元年に制定された市の条例による「不伐の森」を設け、緑を育てています。	・誤表記訂正
P24	冒頭文（段落5）	国の天然記念物に指定されている伊佐沢の久保ザクラや草岡の大明神ザクラをはじめ、最上川堤防千本桜、あやめ公園、白つつじ公園、はぎ公園、 <u>梅花藻</u> など、四季折々に花々が咲き誇る郷になっています。	国の天然記念物に指定されている伊佐沢の久保ザクラや草岡の大明神ザクラをはじめ、最上川堤防千本桜、あやめ公園、白つつじ公園、はぎ公園 <u>などが</u> 盆地の随所にみられ、四季折々に花々が咲き誇る郷になっています。	・梅花藻の記載追加
P24	1 最上川（段落2）	流程のほとんどが上中流的な景観をなし、庄内平野に入って日本海までの30kmほどの区間が、ようやく下流らしい景観になります。 <u>このように</u> 、盆地と狭窄部が数多く連なり、難所の多い河川であることから、日本三大急流のひとつに数えられてきました。 <u>水質</u> においても、途中の狭窄部で自浄作用が働き、中下流部が良好な傾向にある珍しい河川となっています。	流程のほとんどが上中流的な景観をなし、庄内平野に入って日本海までの30kmほどの区間が、ようやく下流らしい景観になります。 <u>しかし</u> 、一方では、盆地と狭窄部が数多く連なり、難所の多い河川であることから、日本三大急流のひとつに数えられてきました。 <u>質</u> においても、途中の狭窄部で自浄作用が働き、中下流部が良好な傾向にある珍しい河川となっています。	・文章修正

P25	2 置賜白川（白川）	<u>42.4km</u>	<u>56.4km</u>	・誤表記訂正
	3 置賜野川（野川）	<u>22.65km</u>	<u>29.4km</u>	・誤表記訂正
P28	2 消流雪用水（段落2）	<u>冬期間の消雪利用にとどまらず、年間を通して市街地水路への水量調整等の役割も担っています。</u>	<u>厳しい雪国に降るたくさんの雪を恩恵に変えながら、長井の生活へと利用されている一つです。</u>	・内容修正
P30	3 置賜葉山	置賜葉山 <u>(1,237m)</u>	置賜葉山 <u>(1,264,5m)</u>	・誤表記訂正
P31	6 熊野山	熊野山 <u>(669.6m)</u>	熊野山 <u>(670m)</u>	・誤表記訂正
P37	あやめ公園（段落2）	あやめ公園は、 <u>令和2年で開園110周年を迎えました。</u>	あやめ公園は、 <u>平成22年で開園100周年を迎えました。</u>	・内容更新
P40	4 野川河畔の桜 (段落1)	<u>昭和20年代から30年代にかけて、野川の谷地橋付近から旧成田橋付近までの右岸に植えられた100本を超えるソメイヨシノです。</u>	<u>野川の谷地橋付近から成田橋付近までの右岸に植えられているソメイヨシノです。100本を超えるほどですが、樹齡は定かではありません。</u>	・内容修正
P41	14 流木（木流し）	<u>「流し木」に統一</u>	文中の <u>「流木」「木流し」</u> 表記	・記載統一

P57	2 産業の移り変わり (段落2)	長井紬は、越後から技師を招いて始まっていましたが、竹田清五郎・齋藤新吉らはさらに優れた技術を求めて、西方吉太郎を新潟から招いて、複雑な紬を織れるまでに発展させていきました。	長井紬は、越後から技師を招いて始まっていましたが、竹田清五郎らはさらに優れた技術を求めて、西方吉太郎を新潟から招いて、複雑な紬を織れるまでに発展させていきました。	・内容追加
P62	5 皇大神社 (段落3)	昭和34年(1959)に東北地方では初めて伊勢神宮の神殿一字を拝受して、当社の本殿として移築し、翌年拝殿を改築しました。	昭和34年(1959)伊勢神宮の建物を <u>使</u> い、翌年拝殿を改築しました。	・内容修正
P62	6 五所神社	1090年、当麻秀則が源義家の命により、朝日岳、祝瓶岳、小朝日、月ヶ峰、三淵の5カ所の尊霊を遷座合祀しました。さらに、大正2年(1913)に山、三淵、八幡、大沢、熊野の五神社を合併し、地名の五祭所の由来になりました。	由緒は役小角にさかのぼり、朝日山大権化とされていましたが、奥羽の兵乱により衰退していきました。源義家の命により、朝日岳から三淵に鎮座する5つの神様を合祀したといわれています。さらに、大正2年(1913)に山、三淵、八幡、大沢、熊野の五神社を合併し、地名の五祭所の由来になりました。	文章構成等の修正
P80	日本一認定	日本一 <u>認定</u>	日本一 <u>検定</u>	・誤表記訂正

P86	<p>4 陶芸成島焼和久井窯 (中段)</p>	<p>和久井窯初代の和久井富二夫氏は、昭和40年に今泉で「長井焼き」を始めましたが、米沢の有力者や文化人から幾度も米沢藩の「成島焼」の再興、復興の依頼と協力を求められ、復興に向けた研究活動に10年の歳月をかけ、成島焼を蘇らせました。<u>平成22年1月には、成島焼和久井窯が長井市市技芸に指定され、和久井富二夫氏が市技芸の保持者として認定されました。また、令和2年1月には、二代目の和久井修氏が市技芸の保持者として認定されました。</u> <u>(写真の差し替え)</u></p>	<p>和久井窯初代の和久井富二夫氏は、昭和40年に今泉で「長井焼き」を始めましたが、米沢の有力者や文化人から幾度も米沢藩の「成島焼」の再興、復興の依頼と協力を求められ、復興に向けた研究活動に10年の歳月をかけ、成島焼を蘇らせました。<u>平成22年1月には、長井指定技芸に指定されました。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容追加</li> <li>・写真差し替え</li> </ul>
-----	-----------------------------	--	--	--